

科目名	子ども文化		必修・選択	選択必修	授業形態	講義	試験	-
	担当者	安藤 節子	単位数	2	学年・期間	1 前期	レポート	20%
							提出課題	60%
							授業態度・意欲	20%
授業のねらいと概要	保育において使われる様々な児童文化財（紙芝居、絵本、素話、ペープサート）を活用して、保育における児童文化について学ぶ。実際に幼児の前で演じることで実践力を養う。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育における児童文化財の重要性を理解できる。 ・児童文化財を活用して、保育の実践を行うことができる。 							
学習者への期待（含準備学習）	現代の乳幼児を取り巻く、様々な児童文化への関心を持ってほしい。文化財の実践では、積極的に取り組み、自分なりの表現の仕方を身につけてほしい。							
回	授業計画			授業内容				
1	保育における絵本について1			大型絵本に親しむ				
2	保育における絵本について2			私の好きな絵本について				
3	絵本の与え方			実践をしてみる				
4	紙芝居について			日本の昔話				
5	紙芝居			生活紙芝居、行事の紙芝居				
6	自然物で遊ぶ			身近な植物・自然物を使ってのお話作り				
7	紙類を使って1			紙コップ、画用紙などを使ってのお話作り				
8	紙類を使って2			紙袋人形の制作と実践				
9	伝承遊びについて1			意義と実践				
10	伝承遊びについて2			実践				
11	乳幼児のための作品と実践1			グループ制作1				
12	乳幼児のための作品と実践2			グループ制作2				
13	乳幼児のための作品と実践3			グループ制作3				
14	乳幼児のための作品と実践4			発表				
15	まとめ							
テキスト	森上史朗編：『保育用語辞典』（ミネルヴァ書房）							
参考文献								

科目名	子どもと自然		必修・選択	選択必修	授業形態	講義	評価の方法	
	担当者	単位数					試験	30%
	永井 博敏	2			1 年 前 期		レポート	—
							提出課題	30%
							授業態度・意欲	20%
							フィールドワーク	20%
授業のねらいと概要		<ul style="list-style-type: none"> ・古くから日本人の生活が自然と深くかかわり合っていることに関心を持ち、進んで身近な自然環境に触れ合う活動を行えるような資質の向上をめざす。 ・子どもの興味・関心を引く身近な動植物や科学事象についての基本的な知識をもち、探索活動などを支えることができるよう、科学的な見識と意欲を備えた保育者の育成を図る。 						
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然や事象及び人間の生活とのかかわりに関する基礎的な事柄を理解する。 ・身近な科学事象の原理を調べたり、身近な材料を使ったおもちゃを製作することができる。 ・大学近辺の公園など身近な自然に親しみ、進んでかかわろうとする意欲や好奇心をもつ。 						
学習者への期待(含準備学習)		子どもたちは自然大好き、動物大好き。溢れる子どもの好奇心を支えることができるよう、普段から身近な自然や科学に興味・関心を寄せ、実践的な活動力を身につけることを期待する。						
回	授業計画	授業内容						
1	オリエンテーション	○授業の全体計画と修得を期待する能力や態度についての説明						
2	自然の営みと人間の生活-1	○映像資料(里山の自然と人間の共生)をもとに「古来より日本人の生活が四季おりおりの自然の営みと深くかかわってきた。」ことを知り、所見をまとめる。(映像資料)						
3	自然の営みと人間の生活-2							
4	秋田の自然を活かした伝統職人の技	○八郎潟周辺自然の特徴と男鹿石の石工、潟魚の佃煮職人、矢竹作りの御矢師など伝統職人の技に触れる。(映像資料)						
5	身近な植物の基礎知識-春1	○本学構内や近隣の道端、公園、野原などに普通に見られる雑草など、草花に関する基礎的な知識を深める。						
6	身近な植物の基礎知識-春2	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 形態や生態などの特徴 ☆ 草花と子どもの遊びについての理解 						
7	身近な植物-フィールドワーク	○短大周辺地域のフィールドワークによって、公園や道ばたの草花の探索活動を体験する。						
8	身近に見られる樹木の基礎知識	○街路樹や短大構内、公園等の樹木について基礎的な知識を理解する。						
9	身近な樹木-フィールドワーク	○「秋操近隣公園」(約1kmの距離にある)において樹木類の実際を観察し、その特徴を体験的に理解する。						
10	大森山動物園の動物たち	○秋田市大森山動物園で見られる動物の特徴や飼育についての基礎的な知識を理解する。						
11	男鹿水族館の生きものたち	○男鹿水族館G A Oの魚類やその他の動物について、特徴などの基本的な知識を理解する。						
12	生活の科学1(例)「お冷やのコップは汗っかき～過飽和と結露～」	○冷水の入ったコップや冬季の窓などにできる結露現象を「水蒸気量と湿度の関係」から説明できるように理解を深める。						
13	生活の科学2(例)「冷房にガスが必要なわけ～気化熱～」	○冷房に電気やガスが必要な理由を「冷媒・圧縮機・気化熱などの関係性」によって説明できるように理解を深める。						
14	生活の科学3(例)「動くおもちゃ～浮沈子のしくみを探ろう～」	○浮沈子を例に、圧力や浮力についての知識を得ると共に身近な材料を使っておもちゃづくりをする。						
15	サイエンス・トピック(例)「巨大地震の謎に迫る」	○科学に関する最近の話題を取り上げ、基本的な内容を理解すると共に自分の今後の生活との関連について考える。						
16	これまでの学びを振り返る	○「子どもと自然」「生活と自然」に関する所見をまとめる。学習の振り返りをする						
テキスト		自作プリントを使用(A4フラットファイル必要)						
参考文献		特定せず。(その都度、関連する書籍等を紹介する)						

科目名	児童福祉と家庭		必修選択	必修	授業形態	講義	試験	80%	
	担当者	藤原 法生		単位数	2	学年・期間	1 年 前 期	評価の方法	レポート 提出課題 授業態度・意欲
授業のねらいと概要		子ども家庭福祉の概要と福祉の実現について学ぶ。 児童や家庭に関する身近な話題について情報交換しながら現代の課題について考える。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの権利と子ども家庭福祉の基本的理念を理解する。 ・子ども家庭福祉の現状、課題、取り組みについて理解する。 ・各種制度や社会資源に関する知識と具体的方法を理解する。 								
学習者への期待 (含準備学習)	社会福祉の一分野である子ども家庭福祉を、身近なテーマとしてとらえて学習してほしい。 新聞記事やニュースなどをとおして、子ども家庭福祉に関心をもってほしい。								
回	授業計画	授 業 内 容							
1	オリエンテーション	児童(子ども)家庭福祉の理念と対象、福祉と保育							
2	子ども家庭福祉の現状(1)	少子化社会、子どもが育つ環境							
3	子ども家庭福祉の現状(2)	子育ての課題と支援							
4	子どもの権利保障	子どもの権利、権利宣言、権利条約							
5	子ども家庭福祉の展開	戦前戦後の児童福祉、現代の子ども家庭福祉							
6	子ども家庭福祉の制度と実施体制(1)	法体系、国と地方の行政機関、専門行政機関							
7	子ども家庭福祉の制度と実施体制(2)	児童福祉施設の体系と運営、利用形態							
8	子ども家庭福祉の制度と実施体制(3)	子ども児童福祉のマンパワー							
9	子ども家庭に対する支援(1)	施設と支援の概要(目的・対象者・サービス内容)							
10	子ども家庭に対する支援(2)	施設と支援の概要(目的・対象者・サービス内容)							
11	子ども家庭に対する支援(3)	施設と支援の概要(目的・対象者・サービス内容)							
12	子ども家庭に対する支援(4)	施設と支援の概要(目的・対象者・サービス内容)							
13	子ども家庭に対する支援(5)	施設と支援の概要(目的・対象者・サービス内容)							
14	地域における子ども家庭福祉(1)	地域の環境と課題							
15	地域における子ども家庭福祉(2)	住民主体の支援体制と活動							
テキスト	山縣文治編：「よくわかる子ども家庭福祉」(ミネルヴァ書房)								
参考文献	なし								

科目名	児童文学		必修・選択	選択必修	授業形態	講義	評価の方法	
	担当者	単位数					学年期間	試験
	大原 かおり	2			2	年 前 期	レポート	—
							提出課題	40%
							授業態度・意欲	20%
授業のねらいと概要	児童文学の歴史、作品研究、作家研究などを通して、児童文学の知識や理解を深める。プリントなどの資料を利用した講義、作品を検証する演習を行う。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代に至るまでの児童文学の流れを理解することができる。 ・作家研究、作品研究を通して児童文学に関する知識や理解を深めることができる。 ・グループ研究のテーマに取り組み、知見を広げることができる。 							
学習者への期待 (含準備学習)	毎回、テーマに関わる作品を読み、意見を出し合いながら授業を進める。積極的な発言を期待する。							
回	授業計画	授業内容						
1	オリエンテーション	児童文学とは						
2	児童文学の歴史(1)	日本の児童文学の流れと背景 ○江戸時代以前						
3	児童文学の歴史(2)	○明治時代						
4	児童文学の歴史(3)	○大正時代						
5	児童文学の歴史(4)	○昭和(戦前・戦中)時代						
6	児童文学の歴史(5)	○昭和(戦後)時代						
7	児童文学の歴史(6)	○現代						
8	(読み語りとコンサート)	(外部講師による絵本読み語り講演会とコンサート)						
9	昔話の世界(1)	昔話絵本について						
10	昔話の世界(2)	昔話の構造について						
11	海外の作品	翻訳について						
12	作品研究・作家研究とは	作品研究・作家研究について						
13	グループ研究(1)	グループでテーマを決め、調べたこと、考えたこと、話し合ったことについて整理してまとめる。						
14	グループ研究(2)							
15	グループ研究発表会 まとめ							
テキスト								
参考文献								

科目名	教育原理		必修・選択	必修	授業形態	講義	試験	—
	担当者	小林 建一	単位数	2	学年・期間	2 年 前 期	レポート	50%
							提出課題	40%
							授業態度・意欲	10%
授業のねらいと概要	教育の意義や歴史、制度、内容と方法、現状と課題などについて、幼児教育に重点をおきながら体系的な学習を進め、教育全般について理解を深める。テキスト・プリント・パワーポイント等による学習を中心とするが、必要に応じて討議や発表等を行う。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の基本的な知識を身につけ、教育の可能性と限界が理解できるようになる。 ・教育の現状をとらえ、今後のあり方について思考し、判断する能力が身につく。 ・自らの教育についての考え方を表現する力が身につくと同時に、実際に教育を展開する技能の基礎が培われる。 ・子どもの豊かな発達・成長を保障する教育への関心・意欲・態度が育つようになる。 							
学習者への期待(含準備学習)	事前にテキストの該当箇所を読んでおくことが望ましい。授業中に生じた疑問点等については質問するなど、学習への積極的な取り組みを期待する。							
回	授業計画	授 業 内 容						
1	教育とは何か	教育の意義と目的、素質と教育【内容を説明し、教育の可能性と限界について考えてもらう。】						
2	発達と教育	発達と学習、生涯発達・学習と幼児期の教育【さまざまな学説を紹介し、自己の成長の問題として振り返る機会とする。】						
3	幼児教育の制度	日本と諸外国の幼児教育制度のしくみ【あらましを説明し、今後の課題について気づかせる。】						
4	幼児教育と家庭・地域	家庭における教育、地域における教育【記述資料を分析し、現状と課題をまとめてもらう。】						
5	教育課程の基本	教育課程とは何か、幼稚園教育の基本【幼稚園教育要領をもとにグループで討議し考えてもらう。】						
6	教育課程の編成	幼稚園教育の目的・目標、領域のねらい・内容【具体的に示し、教育課程の編成にとって何が必要かの理解をはかる。】						
7	指導計画	指導計画の種類、指導計画の作成【実際例を示し、形式・内容を分析・評価するワークを課す。】						
8	教育の方法(1)	幼児教育の形態と方法(指導法)【内容を説明したうえで、課題の解決に必要なワークの体験をさせる。】						
9	教育の方法(2)	多様な幼児教育実践例【映像資料によって紹介し、グループごとの感想を発表し、批評しあう。】						
10	教育評価	評価の必要性と対象、評価のすすめ方【内容を説明し、問題点や課題を探るワークを課す。】						
11	子ども観の歴史(1)	諸外国の幼児教育思想、日本の幼児教育思想【あらましを説明し、違いや影響について考えてもらう。】						
12	子ども観の歴史(2)	幼児教育思想の実践から学ぶ【記録映像を視聴し、その意義についての自己の見解と感想を記述させる。】						
13	教育の現代的課題(1)	教育と児童福祉の関連性、幼稚園・保育所と小学校との連携、早期教育【内容を説明し、現状と課題を認識できるようにする。】						
14	教育の現代的課題(2)	防災教育、防犯教育【実践事例を参考に、グループで討議し指導計画案を作成する機会とする。】						
15	教育の現代的課題(3)	多文化教育、いのちの教育、心の教育【実践事例を参考に、幼児期にふさわしい教育のあり方を考え、提案してもらう。】						
テキスト	小田豊・榎沢良彦編：『新しい時代の幼児教育』(有斐閣) 文部科学省：『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館)							
参考文献								